

1 被害防止計画の作成数、特徴等

作成数:13(うち事業実施分は8)

ニホンザルによる被害がある地域では、生息頭数調査や箱ワナによる捕獲などの「個体数調整」、指導員の育成やモンキードックの導入などの「被害防除」、緩衝帯を設置するなどの「生息環境整備」を組み合わせ効果的な取組を実施した。また、その生息域を包囲して対策を行うよう関係市町村の広域連携体制を構築する内容となっている。

クマ、カラス、ノウサギ、カルガモに対しては、捕獲による「個体数調整」、忌避剤による「被害防除」などを組み合わせ、効果的な取組の内容となっている。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

下北地域のニホンザルに関しては、市町村域を越えた広域的な防除対策が進み、捕獲体制が整備され檻による捕獲や、犬を活用した追い払い等の効果が上がっている。また、鳥獣被害防止のためには地域の主体的な取組が重要であることから、地方公共団体、猟友会等が協力して被害の軽減・防止を行う体制の強化・維持が必要であり、それに向けた人材の育成も進んでいる。

その他の地域では、市町村域の取組となっているが、基礎的な体制が構築され、被害防止や捕獲の強化、人材の育成が図られた。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

弘前市鳥獣被害防止対策協議会(主要鳥獣はサル、クマ)と深浦町鳥獣被害防止対策協議会(主要鳥獣はサル、クマ)は、被害金額、被害面積共に目標を達成できた。

鱒ヶ沢町鳥獣被害防止対策協議会(主要鳥獣はサル、カルガモ、クマ。うち、クマの被害面積以外目標を達成)と五所川原市鳥獣被害防止対策協議会(主要鳥獣:カラス、カルガモ、カモ類)は、被害金額、被害面積の一部をのぞき目標を達成している。

下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議では、広域連携のモデルとなる取組を実施しているが、天然記念物のニホンザルの頭数増加と遊動域の拡大により被害金額、被害面積ともに目標達成に至らなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	青森県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
弘前市鳥獣被害防止対策協議会	弘前市	H20~22年度	ニホンザル、ツキノワグマ、カルガモ、カラス、ノウサギ	H20~22猿害防止用電気柵設置、H20電動ガン導入、H20サル講演会開催、H21・22パチンコ、箱わな、忌避剤、花火導入	・電気柵H20延長750m、H21延長2km、H22延長2km ・電動ガン8丁 ・講演会48名出席 ・パチンコH21延べ10台、H22延べ40台 ・箱わなH21延べ4基、H22延べ16基	弘前市鳥獣被害防止対策協議会	H20.9 ~ H21.8 ~ H22.9 ~	100%	猿害防止用電気柵の効果は大きく、設置した圃場では被害が大きく減少した。その他対策物品(電動ガン、パチンコ、忌避剤)は効果はあるものの、人手が必要だったり、効果が薄れたりと一時的・限定的である。銃器・箱わなによる捕獲も継続して実施している。	ニホンザル 1,030万円 ツキノワグマ 880万円 カルガモ 70万円 カラス 910万円 ノウサギ 700万円	ニホンザル 985万円 ツキノワグマ 708万円 カルガモ 44万円 カラス 992万円 ノウサギ 1,343万円	ニホンザル 110% ツキノワグマ 146% カルガモ 188% カラス 79% ノウサギ -112%	ニホンザル 3.3ha ツキノワグマ 2.8ha カルガモ 3.6ha カラス 3.0ha ノウサギ 2.3ha	ニホンザル 2.9ha ツキノワグマ 2.1ha カルガモ 1.9ha カラス 3.0ha ノウサギ 3.9ha	ニホンザル 129% ツキノワグマ 158% カルガモ 213% カラス 100% ノウサギ -78%	主要鳥獣のサル・クマは、目標以上に被害を軽減することができた。また、対策を地域ぐるみで実施することにより、体制づくりができ、追い払い等の効果も上がっているため、今後も継続して実施していきたい。ただし、サル・カラス等は個体数が増加しており、今後も被害が発生すると推測されるため、継続して電気柵等の導入が必要である。また、捕獲従事者が高齢化等により減少傾向にあるため、育成・確保のための対策を継続する必要がある。	地域の主要獣種であるサル、クマ、及び主要でないカルガモは目標を達成している。なお、カラス、ノウサギは目標達成に至らなかった。カラスの個体数が増加しており、ノウサギは県内で被害が増加傾向にあり、今後は近隣町村との連携を強化した体制づくりに取り組む必要がある。

五所川原市 鳥獣被害防 止対策協議 会	五所 川原 市	H20～ 22年度	ニホン ザル、 カラス、 カルガ モ、 カモ類 (キンク ロ、ス ガモ、 ホシバ ク、ク ロガ モ)	H20・22箱ワナ設 置による捕獲 H21・22スチール 弾による捕獲	H20 箱ワナ導入3基、 H22 箱ワナ導入4基 H21 スチール弾1,887 弾購入、H22スチール 弾2,060弾購入	五所川原 市鳥獣被 害防止対 策協議会			協議会を立ち上げて有害鳥 獣の捕獲に積極的に取り組 むことができた。箱ワナやス チール弾を活用した捕獲によ りカラス・カモ類の被害が軽減 され、また、ニホンザルの捕 獲も進んでいる。市広報や防 災無線、市のホームページ掲 載等で鳥獣被害対策の活動 を広く市民に周知して来たこと 等により、被害地域住民の鳥 獣被害対策意識が高まり一部 では自ら対策を行う住民も出 はじめた。	カラス 58万円 カルガ モ 54万円 カモ類 25,400 万円 ニホン ザル 3.6万円	カラス 0万円 カルガ モ 0万円 カモ類 33,576 万円 ニホン ザル 94.6万 円	カラス 341% カルガ モ 246% カモ類 26%	カラス 0.18ha カルガ モ 0.5ha カモ類 252t ※カモ類 面積単 位:t(ト)	カラス 0ha カルガ モ 0ha カモ類 240t ※カモ類 面積単 位:t(ト)	カラス 357% カルガ モ 433% カモ類 111%	ニホン ザル -160%	主要鳥獣であるカラス、 カルガモ、カモ類の目標達 成状況は、カモ類の被害 金額がシジミの単価の高 騰により目標を下回ったが それ以外は大幅に目標を 上回った。例年の被害傾 向を分析することにより被 害発生時期、地域の特定 が可能となりつつあり、生 産者、猟友会等関係機関 と連携を強化し、被害を未 然に防止する構えとしてい く。また、今後も継続して対 策を行う必要があることか ら鳥獣被害対策交付金事 業を強力に活用していく。	地域の主要獣種であるカラ ス、カルガモは、目標を達成し ている。様々な機会を活用して 被害対策をPRし、基礎的な体 制を構築することで地域住民の 鳥獣被害対策意識が高まってお り評価できる。カモ類被害金額 は目標達成に至らなかったが、 価格の高騰による影響を考慮 すると、被害が軽減されている ものと評価できる。なお、主要 でないサルは、個体数の増加 により目標達成に至らなかった ことから、今後も地域をまきこ んだ対策の強化・維持が必要 である。
鱒ヶ沢町鳥 獣被害防 止対策協議 会	鱒ヶ 沢町	H20～ 22年度	クマ、 ニホン ザル、 カラス、 カルガ モ	H20 先進地研修 H20 広報活動 H20 箱わなの導 入・箱わなによる 捕獲 H21 生息調査 H21 発信機及び 受信機購入 H22 わな免許取 得前講習会 H20～22 花火・エ アガンによる追い 払い H22 モンキードッ ク養成訓練 H22 被害防止に 関する講習会	H20 先進地研修 2回 H20 パンフレット5,000 部作成 H20 箱わな12基導入 H21 生息調査7回実 施 H21 発信機8器、受信 機3器購入 H22 免許取得前講習 会3名参加 H20 花火200発 H21 花火300発 H22花火 720発(自治会、猟友 会等連携し実施) H22 モンキードック2 頭 H22 自治会(5地区) にて講習会実施	鱒ヶ沢町 鳥獣被害 防止対策 協議会		箱わなの導入、一斉追い払 い活動、猟友会による捕獲、 モンキードックの活用により被 害を軽減することができた。 生息調査の実施によりサルの 生息行動範囲等を把握する ことができた。研修会を開 催することにより若手の狩猟 者3名の育成が図られた。	クマ 11.9万 円 ニホン ザル 1,432万 円 カルガ モ 37.5万 円 カラス 11.2万 円	クマ 13.1万 円 ニホン ザル 435.6万 円 カルガ モ 27万円 カラス 44万円	クマ 76% ニホン ザル 262% カルガ モ 165% カラス -569%	クマ 1.2ha ニホン ザル 10.9ha カルガ モ 0.3ha カラス 0.03ha	クマ 0.1ha ニホン ザル 3.18ha カルガ モ 0.2ha カラス 0.5ha	クマ 320% ニホン ザル 264% カルガ モ 200% カラス -4,600 %	カラスで被害が増加して いるものの主要鳥獣では クマの被害金額以外は目 標を大きく上回り評価でき る。サルの生息数は年々 増加傾向にあるので、追 い払い・捕獲の充実等対 策を継続して講じる必要が ある。	地域の主要獣種のサル、カ ルガモ、クマは、クマの被害金 額以外は目標を達成している。 クマについては捕獲頭数も増 え、被害面積の目標は達成し ており、金額の目標はおおむね 達成できており、評価できる。 なお、主要でないカラスは、目 標達成に至らなかった。		
深浦町鳥獣 被害対策協 議会	深浦 町	H20～ 22年度	ニホン ザル、 クマ	H20、22箱わな作 成、H20～22箱わ な設置による捕 獲、H20～22花 火・エアガンによる 追い上げ、一斉追 い上げ活動、H20 ～22緩衝帯の設 置、H20忌避作物 の試験栽培、H21 忌避資材による効 果検証試験、H22 電気柵及び防獣 ネットパイプハウ スによる被害防止 効果検証試験、 H20～22生息頭数 調査。	箱わな導入H20延べ 10基、H22延べ10基、 協議会一斉追い上げ 延べ3回、緩衝帯の設 置延べ8,076㎡、H20 忌避作物試験栽培、 とうがらし1,200本、 H21忌避資材、超音 波発生装置1台、狼の 尿、H22電気柵延べ 157m、防獣ネットパイ プハウス延べ8a、生 息頭数調査延べ103 人	深浦町鳥 獣被害対 策協議会		箱わな作成、導入により捕獲 が進み被害軽減につなが った。これまでは、全て行政任 せであったが、「自分達でや る」の意識が芽生えた。 防獣ネット等個人での対策も 重要であるが、追い上げの際 は農業者ばかりでなく、地域 住民も含めた集団で行う意識 を啓発することができた。 農業者・地域住民一町→実施 隊の連絡体制が確立したた め、迅速な対応が出来るよ うになった。 1つの対策で鳥獣被害を防止 するのではなく、地域ぐるみで 総合的に対策を行うことが必 要であることが住民に理解さ れた。	ニホン ザル 665万 円 クマ 125万 円	ニホン ザル 629万 円 クマ 115万 円	ニホン ザル 105% クマ 108%	ニホン ザル 3.7ha クマ 0.8ha	ニホン ザル 3.7ha クマ 0.8ha	ニホン ザル 100% クマ 100%	サル・クマともに被害金額 において、目標以上の軽 減を達成することができた ことに加え、被害面積も目 標値の軽減を達成できた ことは非常に良い取組み ができたことと評価できる。た だ、被害が大規模農場に 集中していることや、個々 の家庭菜園を防除できて いないことは、野生鳥獣と の棲み分けが完全にでき ていないので、次期対策 以降積極的に取り組む必 要がある。	サル、クマの被害金額、面積 共に目標を達成している。ま た、追い上げなど地域ぐるみの 取組ができたことにより、地域 住民の意識が高まり、実施隊 が中心となった防除時の連絡 体制が構築されており評価でき る。		

下北半島の二ホンザル被害対策市町村等連絡会議	むつ市,大間町,風間浦村,佐井村	H20～22年度	二ホンザル	H20～22檻設置による捕獲、H20～22生息調査、H22犬を活用した追い払い、H22緩衝帯整備等	檻導入H20延べ6基、H21延べ2基、H22延べ5基、H20-22下北全域調査、H22犬1頭、H22緩衝帯整備320㎡	下北半島の二ホンザル被害対策市町村等連絡会議	檻導入に伴い各地域で捕獲体制が整備でき、捕獲の効果を上げているが、サルの増加に追いつかない状況である。犬を活用した追い払いについては、大間町、風間浦村、佐井村の3町村に導入した効果がみられている。しかし、サルの遊動域が拡大し、1頭では追いつかない状況である。	二ホンザル 300万円	二ホンザル 554万円	二ホンザル -66%	二ホンザル 3.5ha	二ホンザル 8.96ha	二ホンザル -107%	捕獲体制が整備され、人材の育成も進み、モンキーダッグの効果が実証されたが、サルの頭数増加による群れの拡大及び分裂により、追い払い活動が十分にできなかった地域での被害が増加した。追い払い活動が効果的にできた地域では確実に被害が減っている。	広域連携の中心となる人材の育成に取り組み、各地域に被害対策指導員を育成し地域のリーダー育成を進め、地域ぐるみで追い払いを実施するなど捕獲体制が進み、新たに広域連携を進める地域のモデルケースとなっている。特に、むつ市は、モンキーダッグや鳥獣被害防止実施隊の活動により、被害が軽減している。しかし、サルの増加、遊動域の拡大により新たな被害地が増加し、被害金額、被害面積共に目標に至っていない。今後、サルの増加や遊動域の拡大に対応した体制の整備を含めた対策が必要である。
------------------------	------------------	----------	-------	---	---	------------------------	---	----------------	----------------	---------------	----------------	-----------------	----------------	--	--

注:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

### 5 第三者の意見

<p><b>コメント</b></p> <p>弘前市鳥獣被害防止対策協議会(獣医師及び中南地区鳥獣保護員 三上 幹雄) ソフト事業とハード事業の相乗効果により鳥獣被害が抑えられたことで、二ホンザルやツキノワグマ等の被害金額及び被害面積の各目標を達成しており評価できる。ただし、捕獲従事者である猟友会員が減少傾向にあるため、引き続き「担い手育成事業」を実施してもらいたい。これまでの計2名の増加だけでは不十分であり、更なる増員を図る必要がある。また、農家以外にも気軽に追い払いに参加できる体制づくりが肝要と考える。さらに、現在サルの生息数が増加しており、生息域も拡大傾向にあるため、電気柵を継続して設置することが被害を防ぐためにも重要である。より効果的な追い払い物品の試験・導入を行うなど、一層対策に取り組んでいただきたい。</p> <p>五所川原市鳥獣被害防止対策協議会(平成23年度鳥獣保護員(旧五所川原市七和、長橋地区を除く旧五所川原市内一円担当) 鳴海 清孝) 私自身は、むしろ鳥獣保護の立場にあるが、農業で生計を立てているので被害を直接的にこうむる生産者の無念さも知っている。市の進める鳥獣害対策は、その捕獲数量等を見ても、県による有害鳥獣捕獲事務取扱要領にかなったものであり適正と見る。また、今般の事業主体による被害防止計画の全体評価も、実被害を適切に把握して対応した事実のみを基にして評価したものであり、妥当である。今後も事故等が決して無いよう無理のない有害鳥獣捕獲に取り組んでいただきたい</p> <p>鱒ヶ沢町鳥獣被害対策協議会(平成23年度鳥獣保護員(西北地区鳥獣保護員) 山中 信幸) さまざまな有害鳥獣対策を実施しており、被害防止計画の全体の被害金額目標と被害面積目標を達成しており評価内容は妥当である。しかし、猟友会の会員も仕事等多忙で、毎日継続して捕獲等に携わることは現状では難しい。また、行政等に頼らない、住民個々の防止意識を一層高めていく必要がある。町の重要産業である農業のためにも、住民個々の被害防止意識の向上が欠かせないと思う。</p> <p>深浦町鳥獣被害対策協議会(下北半島の二ホンザル被害対策市町村等連絡会議 事務局長 山崎 秀春) 全体的に各団体と連携がとれている。事業の評価も妥当である。捕獲体制については、猟友会との連携により捕獲している状況にあるが、どの個体群を捕獲しているのか、或いは捕獲後の個体数がどのように変化しているのか把握されていない状況にある。農作物被害対策については、軽減しているもの大規模農場がサルの餌場になりつつあることから、大規模農場との協議が必要である。対策としては、サル接近警戒システムの導入について、検討するべきではないかと思われる。また、忌避作物の試験栽培を実施しているが、その効果及び課題を示し、今後の農業振興に努めていただきたい。一斉調査(個体群の把握と個体数或いは識別)とラジオテレメトリー調査を実施し、遊動域を把握し、旧岩崎村と秋田県八峰町との個体群の状況を詳しく調査する必要がある。最後に、鳥獣被害対策の臨時職員を採用していることから、雇用の継続を行い専門職としての位置づけをし、より効果的な被害対策を進めていただきたい。</p> <p>下北半島の二ホンザル被害対策市町村等連絡会議(獣医師 柴田 憲明) 捕獲体制の整備とモンキーダッグ導入により被害防止が図られ、効果が現れており評価される。ただ、それを上回る規模での頭数増と群れの分裂が進み被害の拡大が見られており、今後も遊動域が広がることでのさらなる被害増大が考えられる。よって電気柵未設置地域への設置推進とモンキーダッグの各地区への導入と追い払い人員の増員と周辺環境の整備をさらに検討するなど、より強力で効果的な対策を進める必要がある。</p>
--